

俳句

大津俳句会

冬薔薇固く寡黙を続けをり

井芹眞一郎

ぐんぐんと霜解広げゆく日差し

秋山 恵子

疫病の終りの見えず寒に入る

市原 初女

藪柑子^{やぶかんじ}添へて床の間生き生きと

大塚喜久子

弾初はピアノに乗せるドビュッシー

佐賀 久子

背を伸ばしのばして届く注連飾

松尾 昭雅

俳諧の日々を宝と年明くる

岡崎 浩子

切れさうな蔓に委ねし烏瓜

森山美穂子

毛糸編む時間の糸を手繰るごと

佐澤 俊子

俳句

つのはな句会

「反核」も加えて突くおでん鍋

矢嶋 道子

冬の雨 傘の花咲く交差点

水野 春子

大樹の息吹きかがやく 冬うらら

梅木トキエ

病床に茶の花匂う娘の見舞

塚本 洋子

冬野めくれば命の力 おんおん

柴田しのぶ

冬陽射し 挿絵になった鳥の木よ

志賀 孝子

ニンゲンに生まれた不思議

寒昴 田上 公代

主婦の背にがんじがらめの十二月

木庭 杏子

ジャングルジム冬のでっぺん子等あまた

上杉 波

短歌

大津短歌会

ぽつんと落つどんぐり拾う草叢にエノコ
口草が足首くすぐる

豊岡ミツル

戦^{そよ}ぎつつ風に揺らぎて華やける芒^{すすき}しろが
ね奥阿蘇の野に

吉永 恵子

棚田より望めば遠く普賢岳噴火の事も薄
れゆく日々

坂本 杲子

四方より水の流るる山あいの棚田の水面
に遊ぶ冬鳥

鞍 岳志

老吾の第一条を唱^{とな}うれば感謝感謝の辞連^{ことば}
なる

管野 静

幼子に負けじと走る若き母落葉の中を駆
け巡りたり

小平 善行